

雁木町家の空き家活用メニュー開発と地域連携強化

一般社団法人 雁木のまち再生
代表理事 関 由有子

上越市の雁木は風土の特徴的な景観であるが、住民の高齢化と転出で雁木通りに空き家が増えて
いる。雁木コミュニティと外部との連携を探りながら、次世代への継承を目指している。

はじめに

全国で人口が減っている。特に地方都市の市街地など、成熟したコミュニティの弱体化は著しい。単純に「移住者増加」、「店舗・事業所誘致」だけでは限界が見えている。居住も維持管理もされずに放置された空き家が大雪で倒壊した例もあり、地域社会の疲弊を助長する。これまで蓄積されてきた地域の価値が継承されずに、消滅してしまいかねない。

上越市津有地区（旧津有村）は大地主の保阪家とともに、上越地域の基盤を支えてきたが、旧三国街道沿いの雁木通りには空き家が増えている。

数年前からは有志の活動が始まっている。少ない社会資源と人材と資金であっても、地域外と連携することで、地域コミュニティを維持しながら次世代へ継承するために、活用メニューを提案し、実践することで、地域との連携を図ることが必要と考える。

1. 雁木のまちなみに賑わいを

【目的】

雁木町家の時間と空間を体験するイベントを開催して、人が集まることにより「雁木と町家の魅力」を地域内外に宣伝する。

【実施状況】

8月8日に保阪邸の上越名家一斉公開に合わせて、雁木通りの「リメイク&リユースマーケット」を開催したが、感染症蔓延の影響で飲食の出店がかなわず、雁木通りを回遊する賑わいにも欠けた。

【反省点】

- ・名家公開と同日で、保阪邸に来場者が集中した。
- ・マーケット開催は賑わい感のために同じ場所で連続する形が基本であり、今後の取組は検討を要する。
- ・「再利用と再生」のコンセプトが波及しなかった。
- ・情報発信量の不足と、飲食出店の制約があった。
- ・地域内の住民たちの参加意識や協力が見られず、「よその人がやってる」という反応だった。

2018年の全国空き家総数は849万戸（13.6%）

（総務省統計局住宅・土地統計調査）

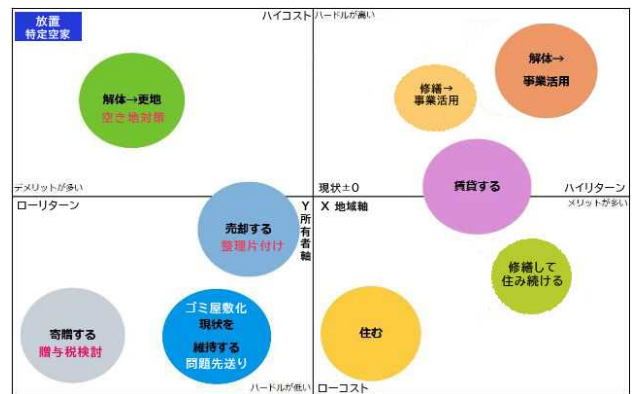


図1 空き家マトリクス（地域と所有者の意識）

地域のお宝再発見、こんなところがあったのか！

上越名家一斉公開

2021 8/8 日 9:00-16:00

上越市に個人所有で残る歴史的名家4邸を同日に公開します。「夏の一斉公開」は今年が初めて！各邸それぞれの夏らしい宝礼(しつらい)でお待ちしています。

初 夏の公開

	公開日時	料金	所在地・問合せ先
白田邸	8月8日 9:00～16:00	維持協力金として500円 (高校生以下無料)	上越市須賀区森本703 ☎090-4951-9510(白田邸保存会 船木)
瀧本邸	8月8日 9:00～16:00	維持協力金として500円 (高校生以下無料)	上越市須賀区百間町711 ☎025-530-2700(瀧本)
林富永邸	8月8日 9:00～16:00	維持協力金として500円 (高校生以下無料)	上越市三和区神田2245 ☎025-532-2692(林富永邸 酒井)
保阪邸	8月8日 9:00～16:00	入場料として800円 (高校生以下無料)	上越市戸野目488 ☎090-5484-5725(保阪)

上越名家ネットワーク

URL: <https://jaetm-mekka.com/>
Eメール: network@jaetm-mekka.com
電話: 090-4325-4224 (事務局・小林)

後援: 上越市

リメイク&リユースマーケット in 戸野目

Reuse & Remake 古いモノ 発掘&再評価 自分流の楽しいDIY

ふたたびのどうぐ家・榎み研・道具屋矢澤商店、ほか 骨董や古書市 天然酵母パン販売(こびと窯・織)ジュラート、珈琲 などキッチンカー予定

8/8 名家一斉公開同日@四ヶ所と戸野目の雁木 雁木のまち再生 プロジェクト推進委員会 09025781457 関

図2 上越名家一斉公開に合わせて開催
リメイク&リユースマーケット in 戸野目

2. 町家の活手法試行 『くらしのシルエット展』

【目的】

雁木町家自身が放つ『アート性』を作品化し、アート関係者に制作と発表の場を提供することで、町家の可能性を実験的に試みる。同時に空き家を定期的に使うことで、地域に新たな核を作り出す。

【実施状況】

9月18～23日（21日を除く5日間）に戸野目のこうじやを会場として『くらしのシルエット展』を開催した。町家で暮らす若者5人の写真を透明フィルムにプリントして、町家独特の空間に100点を展示。子ども連れの家族など約150人の来場者であった。感染症対策の人数制限を考慮して、グーグルフォームの事前予約システムを導入、インスタグラムやSNS広告で若い世代への情報発信を試行した。その一方、口コミによる来場者も多かった。

こうじや以外の雁木町家でも朗読会やお茶飲み会があり、普段は静かな雁木に外からの来訪者が目立った。市内居住者でも「ここに雁木通りがあることを初めて知った」という人が多かった。

【反省点】

- ・現在の静かな住宅街に多くの他人が出歩くことに、違和感を抱く住民もあり、事前案内、報道とポスターでは超え難い「壁」があることを感じた。
- ・イベントに駐車場は必須である。臨時駐車場の手配と案内、距離感などを再検討するべきである。

（別添資料:アンケート集計まとめ）

- ・後日、展覧会のことを知った方から連絡があり、先々代が営業していた糰店兼住宅であることが分かった。昔のままの土間や吹抜などの懐かしい記憶が糰の発酵の匂いと併せて甦ったと聞く。



図3 四ヶ所・戸野目地区の雁木通り（Google mapより作成）

国道18号が雁木の連続を「分断」し、新道の開通と郊外型

店舗、スーパーの進出もあり旧街道はひっそりしている。



図4 こうじや（旧宮崎糰店）の吹抜空間に写真を吊り下げた。

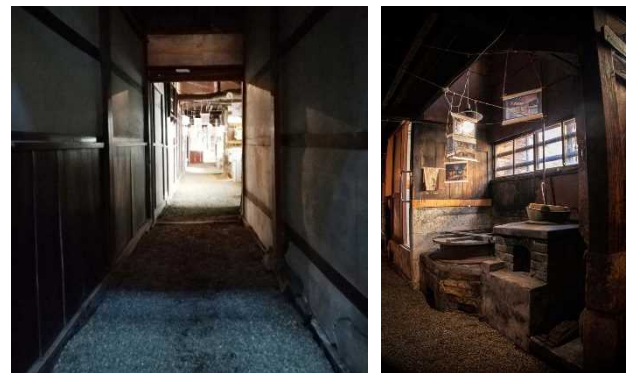


図5 暗い土間とかまどのある勝手・風呂場・便所の明るさ。



図6 奥の土蔵には立派な龍の漆喰彫刻が残っている。

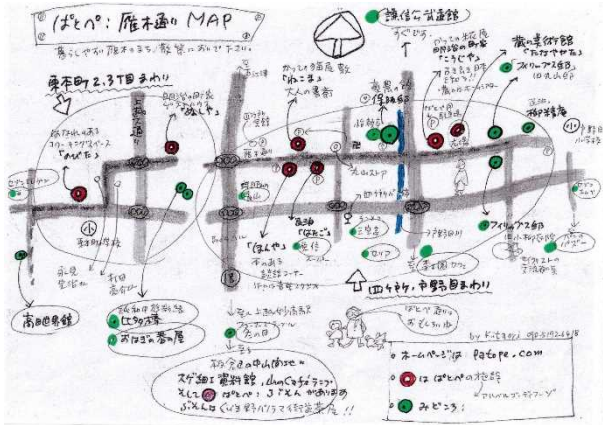


図7「雁木ぱとへ構想」のイメージ (© 北折佳司)

3. 次世代と地域への働きかけ 『Zine 発行』

【目的】

自主的な紙媒体作りの面白さを共有し、地域の連帯感を盛り上げる。雁木町家の住民と関係者から、若い人々（次世代、縁者）や異業種への発信手段となることを目指す。

【実施状況】

7月中旬から編集メンバー募集を開始、放送案内と同時に SNS (Facebook/Instagram) での発信で10名の応募者から、東京在住者を含む5名を選抜した。各自の希望によりコンテンツと担当ページを決定し、取材と編集で10数回のミーティングを実施。SNSアカウントの利用を継続して情報発信を行い、両面表紙の写真は Instagram で募集した。

2月26日に完成発表会を行い、雁木通りの住宅1,900戸にポスティング配布と関係者先への送付や配置を行い、SNSでPDFファイルを公開している。SNS発信と報道紹介の効果で印刷物を希望する声が多くなり、急遽600部を追加印刷した。

【今後の予定】全国向けの発信の機会

山梨県立文学館の7月の企画展覧会に展示の要請がある。また、今後予定されている全国規模のフォーラムで配布紹介をしていきたい。

- ・5月28日 日本建築学会「住まい・まちづくり支援建築会議」(上越市で開催・オンライン併用)
- ・6月11-12日 第45回全国町並みゼミ新潟大会と新潟県美しいまちなみフォーラム (新潟市で開催)

一般社団法人 雁木のまち再生 (2021年度企画)

『Zine』

編集メンバー募集

募集期間 | 2021年8月10日(月) まで
 テーマ | 「雁木のまち高田」
 発行日 | 2022年2月下旬 (予定)
 実動開始 | キックオフミーティング 2021年9月上旬 (予定) ~

まちの歩みの過去と今。そして、これから。ネット時代、スマホ・PCが当然の時代。だからこそ…「大切なものは、形にして残したい」。今年度、一般社団法人 雁木のまち再生が発行元となり、「雁木のまち高田」をテーマに冊子を1冊、作ります。あなたもその編集メンバーに加わりませんか？

図8 Zine 編集メンバー募集の案内を配布

Zine は、雑誌 (Magazine) として小さな冊子を指す。



図9 Zine 編集集会議の様子 (高田小町にて)

キックオフミーティングや編集会議はリモートも併用した。

写真募集

雁木のまち高田に住んでいる方も、そうでない方も

わたしの好きな雁木のまち高田、皆で共有・発見しよう!

あなたも好きな「雁木のまち高田」を教えてください!

たどろは…小こをな 何気ない風景 (オーソマ's fav 雁木高田)

■応募資格: なし
 ■ルール: fav 雁木高田をくけてホスト!
 ■その他詳細: キマブジョンをCHECK

つぎつぎ

雁木町家のふるさとつぎつぎマガジン

図10 Zineのタイトルとロゴ、表紙写真を編集室が決定。



図11 「つぎつぎ」はA4版8頁組で2022年2月22日発行。

4. 活用および本事業の継続の方策

【助成活動】

①定期公開を行う保阪邸をはじめ、複数の町家所有者との連携を強化する。

(保阪邸、フィリップス邸、旧丸山家、ブックバルほんや、ねこま、たなやかた、柳精庵など)

②地域全体のエリアリノベーションの継続に向けて、有償利用や有料見学の仕組みを模索する。コロナ感染症の状況を計りつつ、アーティストや作り手との交流と関係人口の拡大を目指す。

③フリーペーパーやエリアマップなどは、一度作って終わりではない。作り手を募集して編集制作を通じて、地域内外の連携を進める。(駅伝タスキリレー方式による継承)。あわせて、ホームページを作成して発信事業と資金面の支援を募り、地域から全国に働きかけるための仕組みを整えていく。

【関連活動】

④大学生や研究者向けの現地研修や視察を受け入れて、継続的な教育と研究の機会を提供する。宿泊を伴う研修やフィールドワークの充実に努める。企業研修や社会貢献プログラムとの連携も視野に入れて、上越地域の関係者との連携を図っていく。

⑤戸野目・四ヶ所雁木通り活性化事業

今年度からは居住者と移住者がリードする「戸野目・四ヶ所雁木通り活性化協議会」(任意団体)が、住民自身が地域に関わるきっかけとなる活動を行っている。地域外から寺院に入られた僧侶、旧地主当主の活動を紹介する「通信」を発行して配布。当法人の「くらしのシルエット展」来場者にも雁木通りのイベントを伝えてアンケート記入を動きかけた。

高校生の現地フィールドワークにあたり、町内会長を介して、雁木通りの住民に依頼の文書を事前配布していただいた。(通信2号、3号添付)

⑥津有地区公民館「ふるさと未来づくり事業」

上越市教育委員会社会教育課の事業として、旧津有村を擁する公民館事業とも連携した。広域視聴覚ライブラリの貸出で、昭和30年代の農村の暮らしを紹介する短編映画「おやじ」を上映。公的機関からの声掛けもあり、戸野目と四ヶ所の町内会長の他、参加者が多かった。(まとめ 添付)



図12 上越地域の大地主保阪家と怡願亭



図13 保阪家大正時代建築の温室と植物コレクション



図 14 高田高校の生徒がフィールド実習でまちなみを見学。3年前からの継続研修プログラムで初の実地研修だった。後日の発表会に参加し、現役高校1年生の受け止め感を知った。

5. 地域連携の在り方を探る

【今年度事業の反省から】

くらしのシルエット展来場者は、初めて通る郊外の雁木通りの佇まいを新鮮に感じていた。年配者は懐かしい記憶を呼び起こした。レトロな風物を楽しむだけでなく、「今日の我々の暮らしに連なる何か」を実感する若者や子どもが多かった。

地元の受け止め方はさまざまだった。「昔はバス通りの商店街」「子どもが多くて賑やかだった」という記憶を語りながら、笑顔で町家の中を案内して下さった方があった。反対に「もう諦めたし、全部は残せない」「アートはねえ、わからないし…」という声も耳にした。観光ポイント（保阪邸やフィリップス邸）は頑張してほしいが、現在の住宅街の静かさを維持したいという意見も見られた。

高田駅周辺の雁木町家地域とのギャップはあるが、移住者や関係者が真面目に活動が続ける中で、**地域への敬意を失わない関わり方**を大切にしていきたい。特に、駐車場確保や除雪と農地の除草管理は、イベント時だけでなく日常の生活環境に直結する。

6. おわりに

東京への人口集中は、新型コロナウイルスによる一時停滞を経て、この先どうなるのだろうか。かたや、雪国とはいえ、温暖化による記録的少雪が続き、機械除雪や正確な予報のおかげで、日常生活の不便さは減ってきた。それでも、日本各地には様々な潜在的リスクがあり、予測できない災害も起こりうる。密集する都心からの地方への回帰が一時の流れで終わらず、人口減少の地域と共に生きることが、自然環境を包含する社会全体の要請ではないだろうか。

地方都市の安心感は共助互助の精神に基づく地域社会の距離の近さといえようが、それが気苦勞の種にもなりうる。大学や就職で離れていく人は多い。

反対に、新規移住者やゲストハウスが、旧来の町内で受け入れられるだろうか。固く閉ざされていた家に明かりがともり、挨拶を交わす間柄になり、除雪や町内会行事に積極的に参加してほしいという声を聞く。少ない高齢者だけでできないことも多い。

大地震や戦火を免れてきた「越後高田」の歴史と文化は、互助共助の精神に支えられてきたものであり、地域社会存続の原点であると考えられる。人口密集地における感染症拡大のリスクは、巨大化する都市の課題であることが再認識されて、日本では浸透しにくかった在宅勤務やワークシェアが導入されて、ライフスタイルの多様さは現実になっている。リスクの高い都心から、地方へ、中心部から郊外へ、自然に近い環境、農業、身近な菜園と園芸などのメリットを生かせるような活動を試していきたい。

社会関係を上手くやりくりする中で、エコロジカルでエシカルな生活文化を伝える雁木のまちを、次の世代に引き継いでいきたい。

参考文献

- 上越市高田雁木現況調査報告:2018年 新潟大学 黒野弘靖
- 高田の町家と雁木の文化的価値について:2015年 同上
- 雁木:日本一の多雪環境がつくった気候景観 山縣耕太郎
(ぶら高田:2014年 代表著者 浅倉有子)
- 町家読本:2010年 上越市、新潟大学建築計画研究室編集
- 町家の活用促進に係る調査報告書:2019年 上越市

謝辞

くらのシルエット展

池田なつき（アートディレクター、デザイナー）

上野迪音・打田亮介・西澤真咲・町桃子・吉田恵理（写真）

Zine つぎつぎ編集室

大嶋大貴・荻谷有花・小山郁美・杉田佑介・吉田容子

Zine つぎつぎ 編集、印刷、配布

（株）桐朋（広報、編集ディレクション、印刷）

（株）パーツプロダクション（ポスティング）

四ヶ所戸野目地区

保阪洋子（保阪邸）上越名家

北折佳司（こうじや・Bookbar ほんや・ねこま）

日浅智恵（戸野目・四ヶ所雁木通り活性化協議会）

四ヶ所町内会

戸野目町内会

上越市教育委員会社会教育課・津有地区公民館

新潟県立高田高校 SSH 部

本活動にご協力、ご尽力いただいた皆様に感謝いたします。

一般社団法人雁木のまち再生 理事一同